

専攻分野/コース (英文名)	産婦人科学 (Obstetrics and Gynecology)
研究指導教員	鈴木 直
研究・教育の概略	産婦人科学には臨床上の分類である周産期医学、生殖医学、婦人科腫瘍学ならびに女性医学の4専門分野がある。大学院産婦人科は各分野の臨床と平行して基礎的研究能力を高めることにより、専門家としての臨床能力の獲得と同時に基礎的研究の向上を目指すものである。周産期医学は胎盤を通した母児の代謝、内分泌学的相関を解明する学問分野であり、その破綻は妊娠高血圧症等の重篤な病態を引き起こす。生殖医学は配偶子、胚の生理学であり、生殖という最も神秘的な生物学的現象を解明する。その対象は視床下部一下垂体系の機能から始まり、卵の発生、卵胞発育、受精、着床のメカニズムに及ぶ。その臨床的成果は不妊治療、特に補助的生殖医療として臨床応用される。婦人科腫瘍学は女性生殖器を対象とした外科で、広く悪性、良性腫瘍一般を対象とした基礎的研究と関連する。女性医学の分野は思春期、更年期医学のほか月経関連症状、避妊、性感染症などを含む広い分野で、女性性機能、感染症などの広い知識を必要とする。これらの分野の基礎研究は現在では分子生物学的な基礎的技術を中心として展開しており、さらに培養技術、統計学は必須である。本分野では、個々の大学院生の臨床専門分野に即して、実習、講義行い、さらに大学院指導教員、産科、婦人科分野の教員の指導の下に研究論文の完成を目指す。
研究項目	① 周産期医学 (1) 代謝内分泌異常合併妊娠の管理に関する研究 (2) 胎盤に関する研究 (3) プレコンセプションケアに関する研究 (4) 胎児医学に関する研究 ② 生殖医学 (1) がん・生殖医療に関する研究 (2) 卵巣組織凍結・移植に関する基礎的研究と臨床応用 (3) 抗がん剤の性腺毒性に関する研究 (4) 人工卵巣開発に関する研究 (5) 精巣組織凍結に関する研究 ③ 婦人科腫瘍学 (1) 婦人科悪性腫瘍に対する新たな治療薬開発に関する分子生物学的検討 (2) 婦人科がん治療における QOL 評価(PRO)の検証に関する研究 ④ 女性医学 (1) 小児・思春期がんサバイバーの長期フォローアップに関する研究(女性ヘルスケア) (2) 骨粗鬆症の診断に関する研究 (3) 女性ヘルスケア的視点による行動変容に関する研究 (4) 早期閉経及び正常閉経後女性における脂質代謝、骨代謝に関する研究
準備学習(予習・復習)	事前に参考資料を読むこと、授業後にはレポートを提出すること

2025 年度講義シラバス（1）

講義コード	※	専攻分野	産婦人科学		
講義題目	産科病態学特論		必修/選択	必修	
担当教員	高江 正道	担当教員連絡先	内線 3332		
単位数	2 単位（前期 1、後期 1）	履修年次	1 年		
テーマと目的	胎児－胎盤系生理学および多様な病態の病態生理を理解する。				
講義計画	胎児－胎盤系の病態生理、症例検討について解説する。				
達成目標	産科病態生理学を理解し、説明できる。				
教科書・参考書	Williams Obstetrics、McGraw-Hill（26th edition）				
準備学習(予習・復習・時間)	事前に参考資料を読むこと、授業後にはレポートを提出すること 1 時間				
成績評価法	出席状況と講義内での発表または受講態度による総合評価				
卒業認定・学位授与の方針との関連性	産科の各種疾患について理解し、診療、研究に応用できる力を養う				
講 義 内 容					
前期(回)	内 容	(出席◎)	後期(回)	内 容	(出席◎)
1	妊娠の生理、内分泌学 1		1	前置胎盤 1	
2	妊娠の生理、内分泌学 2		2	前置胎盤 2	
3	妊娠の生理、内分泌学 3		3	常位胎盤早期剥離 1	
4	流産およびその臨床 1		4	常位胎盤早期剥離 2	
5	流産およびその臨床 2		5	頸管無力症	
6	早産管理 1		6	妊娠高血圧症候群 1	
7	早産管理 2		7	妊娠高血圧症候群 2	
8	子宮外妊娠 1		8	妊娠高血圧症候群 3	
9	子宮外妊娠 2		9	HELLP 症候群	
10	絨毛性疾患 1		10	IUGR	
11	絨毛性疾患 2		11	羊水過多、過少	
12	前期破水		12	異常分娩管理 1	
13	多胎妊娠 1		13	異常分娩管理 2	
14	多胎妊娠 2		14	異常分娩管理 3	
15	妊娠糖尿病		15	異常分娩管理 4	

2025 年度講義シラバス（2）

講義コード	※	専攻分野	産婦人科学		
講義題目	生殖医学特論		必修/選択	必修	
担当教員	洞下 由記	担当教員連絡先	内線 3332		
単位数	2 単位（前期 1、後期 1）	履修年次	1 年		
テーマと目的	排卵機構、受精、着床の機序を理解する。				
講義計画	中枢神経系の関与を含めた排卵、受精、着床機序について解説する。				
達成目標	生殖医学の基礎となる排卵、受精、着床現象の生理的機序を 内分泌学的、分子生物学的に理解する。				
教科書・参考書	生殖医療の必修知識 2023（日本生殖医学会・編 株式会社杏林舎）				
準備学習(予習・復習・時間)	事前に参考資料を読むこと、授業後にはレポートを提出すること 1時間				
成績評価法	出席状況と講義内での発表または受講態度による総合評価				
卒業認定・学位授与 の方針との関連性	情報を評価・理解し、自らの言葉で研究について論述する能力を身につけている				
講 義 内 容					
前期(回)	内 容	(出席@)	後期(回)	内 容	(出席@)
1	視床下部と性機能 1		1	無月経（子宮性無月経） 1	
2	視床下部と性機能 2		2	無月経（子宮性無月経） 2	
3	下垂体と性機能 1		3	無月経（神経性食思不振症） 1	
4	下垂体と性機能 2		4	無月経（神経性食思不振症） 2	
5	卵胞発育 1		5	無月経（肥満、やせ、運動による無月経） 1	
6	卵胞発育 2		6	無月経（肥満、やせ、運動による無月経） 2	
7	卵胞発育に関する遺伝子		7	高プロラクチン血症 1	
8	子宮内膜の機能		8	高プロラクチン血症 2	
9	無月経（性腺形成異常） 1		9	PCO 1	
10	無月経（性腺形成異常） 2		10	PCO 2	
11	無月経（ターナー症候群、卵巣性無月経） 1		11	PCO 3	
12	無月経（ターナー症候群、卵巣性無月経） 2		12	思春期の内分泌異常 1	
13	無月経（ターナー症候群、卵巣性無月経） 3		13	思春期の内分泌異常 2	
14	無月経（精巣性女性化症候群） 1		14	早発閉経 1	
15	無月経（精巣性女性化症候群） 2		15	早発閉経 2	

2025 年度講義シラバス (3)

講義コード	※	専攻分野	産婦人科学	
講義題目	分子生物学概論		必修/選択	必修
担当教員	鈴木 直	担当教員連絡先	内線 3332	
単位数	2 単位（前期 1、後期1）	履修年次	1年	
テーマと目的	分子生物学で用いられる基本的技術を習得する。			
講義計画	DNA の精製、DNA の定量、DNA の標識、mRNA と DNA の抽出、cDNA の作製などの原理と方法を学ぶ。			
達成目標	1、DNA を取り扱う分子生物学的方法とその原理を理解し、説明できる。 2、特定の遺伝子(DNA)を抽出・増幅法とその原理を理解し、説明できる。			
教科書・参考書	1. 細胞の分子生物学（Alberts（著）、（監訳）中村 桂子、松原 謙一、ニュートンプレス（第6版、2017） 2. バイオ実験イラストレイテッド〈1〉分子生物学実験の基礎（細胞工学別冊 目で見える実験ノートシリーズ、中山 広樹（著）、西方 敬人（著）、秀潤社、1995）			
準備学習(予習・復習・時間)	事前に参考資料を読むこと、授業後にはレポートを提出すること 1時間			
成績評価法	出席と講義内での発表また受講態度による総合評価。			
卒業認定・学位授与の方針との関連性	分子生物学の知識に基づいて、自身の研究を遂行し論述する能力を習得する			
講 義 内 容				
前期(回)	内 容 (出席⑩)		後期(回)	内 容 (出席⑩)
1	DNA を取り扱う際の注意点（1）		1	RNA を取り扱う際の注意点（1）
2	DNA を取り扱う際の注意点（2）		2	RNA を取り扱う際の注意点（2）
3	DNA の抽出法の原理（1）		3	RNA の抽出法の原理
4	DNA の抽出法の原理（2）		4	RNA と DNA の抽出法の相違点
5	DNA 抽出における失敗例とその回復方法		5	RNA 抽出における失敗例とその回復方法
6	DNA の精製法の原理（1）		6	mRNA の精製法の原理（1）
7	DNA の精製法の原理（2）		7	mRNA の精製法の原理（2）
8	DNA 精製における失敗例とその回復方法		8	mRNA 精製における失敗例とその回復方法
9	DNA の定量法の原理（1）		9	cDNA の作製法の原理（1）
10	DNA の定量法の原理（2）		10	cDNA の作製法の原理（2）
11	DNA 定量における失敗例とその回復方法		11	cDNA 作製における失敗例とその回復方法
12	PCR の原理（1）		12	RT-PCR の原理（1）
13	PCR の原理（2）		13	RT-PCR の原理（2）
14	PCR における失敗例とその回復方法		14	RT-PCR における失敗例とその回復方法
15	前期総合討論と発表		15	後期総合討論と発表

2025 年度講義シラバス（４）

講義コード	※	専攻分野	産婦人科学	
講義題目	婦人科腫瘍学特論		必修/選択	必修
担当教員	鈴木 直	担当教員連絡先	内線 3332	
単位数	2 単位（前期 1、後期 1）	履修年次	1 年	
テーマと目的	婦人科腫瘍の病態を病理学・分子生物学的に理解する。			
講義計画	系統的講義および症例検討により、子宮頸癌、子宮体癌、卵巣癌などの病態につき解説し、症例の呈示を行う。			
達成目標	1. 婦人科悪性腫瘍の病態を理解し、治療方針を立てられる。 2. 婦人科腫瘍領域の問題点を抽出し、実験計画を立てられる。			
教科書・参考書	Berck & Novak's Gynecology（16th edition）			
準備学習(予習・復習・時間)	事前に参考資料を読むこと、授業後にはレポートを提出すること 1時間			
成績評価法	出席状況と講義内での発表または受講態度による総合評価			
卒業認定・学位授与の方針との関連性	婦人科腫瘍学の知識に基づいて、自身の研究を遂行し論述する能力を習得する			
講 義 内 容				
前期(回)	内 容 (出席◎)		後期(回)	内 容 (出席◎)
1	外陰癌 1		1	子宮良性腫瘍 4
2	外陰癌 2		2	卵巣良性腫瘍 1
3	LSIL		3	卵巣良性腫瘍 2
4	HSIL		4	卵巣良性腫瘍 3
5	腔腫瘍 1		5	卵巣良性腫瘍 4
6	腔腫瘍 2		6	卵巣良性腫瘍 5
7	子宮頸癌 1		7	卵巣良性腫瘍 6
8	子宮頸癌 2		8	子宮体癌 1
9	子宮頸癌 3		9	子宮体癌 2
10	子宮頸癌 4		10	子宮体癌 3
11	子宮頸癌 5		11	子宮体癌 4
12	子宮頸癌 6		12	子宮体癌 5
13	子宮良性腫瘍 1		13	子宮体癌 6
14	子宮良性腫瘍 2		14	絨毛性腫瘍 1
15	子宮良性腫瘍 3		15	絨毛性腫瘍 2

2025 年度講義シラバス（5）

講義コード	※	専攻分野	産婦人科学		
講義題目	婦人科腫瘍治療学特論		必修/選択	必修	
担当教員	大原 樹	担当教員連絡先	内線 3332		
単位数	2 単位（前期 1、後期 1）	履修年次	1 年		
テーマと目的	婦人科悪性腫瘍の治療法、特に抗癌化学療法、放射線療法について学ぶ。				
講義計画	抗癌化学療法、放射線療法の原理とその実際につき解説するとともに、症例検討を行う。				
達成目標	婦人科悪性腫瘍の治療法、特に抗癌剤化学療法、放射線療法につき理解し、説明できる。				
教科書・参考書	Disaia, Cresman Clinical Gynecologic Oncology（10th edition）				
準備学習(予習・復習・時間)	事前に参考資料を読むこと、授業後にはレポートを提出すること 1時間				
成績評価法	出席状況と講義内での発表または受講態度による総合評価				
卒業認定・学位授与の方針との関連性	抗がん剤、放射線治療の基礎知識および独立して治療を構成することができること				
講 義 内 容					
前期(回)	内 容	(出席㊥)	後期(回)	内 容	(出席㊥)
1	卵管癌等 1		1	広汎性子宮全摘術 6	
2	卵管癌等 2		2	広汎性子宮全摘術 7	
3	子宮全摘術 1		3	広汎性子宮全摘術 8	
4	子宮全摘術 2		4	癌化学療法 1	
5	子宮全摘術 3		5	癌化学療法 2	
6	子宮全摘術 4		6	癌化学療法 3	
7	子宮全摘術 5		7	癌化学療法 4	
8	子宮全摘術 6		8	癌化学療法 5	
9	子宮全摘術 7		9	癌化学療法 6	
10	子宮全摘術 8		10	放射線療法 1	
11	広汎性子宮全摘術 1		11	放射線療法 2	
12	広汎性子宮全摘術 2		12	放射線療法 3	
13	広汎性子宮全摘術 3		13	放射線療法 4	
14	広汎性子宮全摘術 4		14	放射線療法 5	
15	広汎性子宮全摘術 5		15	放射線療法 6	

2025 年度講義シラバス（6）

講義コード	※	専攻分野	産婦人科学		
講義題目	生殖内分泌学特論		必修/選択	必修	
担当教員	柿沼 敏行	担当教員連絡先	内線 3332		
単位数	2 単位（前期 1、後期 1）	履修年次	1 年		
テーマと目的	排卵機能およびその破綻に至る病態を理解する。				
講義計画	視床下部－下垂体－卵巣系およびそれに影響を与える甲状腺、副腎皮質等の内分泌機能を系統講義、症例検討と通して解説する。				
達成目標	視床下部－下垂体－卵巣系およびそれに影響を与える甲状腺、副腎皮質等の内分泌機能の生理と病態を理解し、説明できる。				
教科書・参考書	生殖医療の必修知識 2023（日本生殖医学会・編 株式会社杏林舎）				
準備学習(予習・復習・時間)	事前に参考資料を読むこと、授業後にはレポートを提出すること 1時間				
成績評価法	出席状況と講義内での発表または受講態度による総合評価				
卒業認定・学位授与の方針との関連性	情報を評価・理解し、自らの言葉で研究について論述する能力を身につけている				
講 義 内 容					
前期(回)	内 容	(出席@)	後期(回)	内 容	(出席@)
1	子宮内膜症 1		1	排卵誘発法 1	
2	子宮内膜症 2		2	排卵誘発法 2	
3	子宮内膜症 3		3	排卵誘発法 3	
4	子宮内膜症 4		4	更年期 1	
5	子宮内膜症 5		5	更年期 2	
6	子宮内膜症 6		6	更年期 3	
7	子宮筋腫 1		7	更年期 4	
8	子宮筋腫 2		8	ホルモン療法 1	
9	子宮奇形 1		9	ホルモン療法 2	
10	子宮奇形 2		10	ホルモン療法 3	
11	月経前緊張症 1		11	ホルモン療法 4	
12	月経前緊張症 2		12	不育症 1	
13	月経困難症 1		13	不育症 2	
14	月経困難症 2		14	不育症 3	
15	月経困難症 3		15	不育症 4	

2025 年度講義シラバス (7)

講義コード	※	専攻分野	産婦人科学	
講義題目	産婦人科栄養・代謝学特論		必修/選択	必修
担当教員	杉下 陽堂	担当教員連絡先	PHS 80680	
単位数	2 単位（前期 1、後期 1）	履修年次	1 年	
テーマと目的	排卵機能、胎児－胎盤系に関わる栄養・代謝につき学ぶ。			
講義計画	糖質、脂質、エネルギー代謝の基礎およびその産婦人科学的関与を講義および症例呈示により解説する。			
達成目標	女性の性周期、妊娠、分娩、加齢過程に関わる代謝の関与を、脾機能等を含めて内分泌学的、分子生物学的に理解し、説明できる。			
教科書・参考書	女性医学ガイドブック 更年期医療編 2019 年度版 第2 版（日本女性医学学会編 金原出版）			
準備学習(予習・復習・時間)	事前に参考資料を読むこと、授業後にはレポートを提出すること 1 時間			
成績評価法	出席状況と講義内での発表または受講態度による総合評価			
卒業認定・学位授与の方針との関連性	排卵機能、胎児－胎盤系に関わる栄養・代謝について知識を深め、自身の研究を遂行する基礎知識を習得する			
講 義 内 容				
前期(回)	内 容 (出席◎)	後期(回)	内 容 (出席◎)	
1	肥満、やせと生殖機能 1	1	産褥期の栄養	
2	肥満、やせと生殖機能 2	2	更年期と脂質代謝 1	
3	肥満、やせと生殖機能 3	3	更年期と脂質代謝 2	
4	ストレスと生殖機能 1	4	更年期と骨代謝 1	
5	ストレスと生殖機能 2	5	更年期と骨代謝 2	
6	妊娠の栄養 1	6	婦人科老年学 1	
7	妊娠の栄養 2	7	婦人科老年学 2	
8	妊娠の栄養 3	8	妊娠高血圧と栄養 1	
9	妊娠の栄養 4	9	妊娠高血圧と栄養 2	
10	女性の高脂血症 1	10	妊娠と糖代謝	
11	女性の高脂血症 2	11	胎盤機能とその異常 1	
12	不妊と栄養 1	12	胎盤機能とその異常 2	
13	不妊と栄養 2	13	胎盤機能とその異常 3	
14	妊娠中の栄養 1	14	性周期調節に関わる生理活性物質 1	
15	妊娠中の栄養 2	15	性周期調節に関わる生理活性物質 2	

2025 年度講義シラバス（8）

講義コード	※	専攻分野	産婦人科学	
講義題目	婦人科手術学特論、実習		必修/選択	必修
担当教員	久慈 志保	担当教員連絡先	内線 3332	
単位数	2 単位（前期 2）	履修年次	2 年	
テーマと目的	婦人科手術学の解剖および手技を理解し、習得する。			
講義計画	手術の現場とその前後の講義を通して、婦人科手術の解剖、手技を教示する。			
達成目標	1. 婦人科手術全般の解剖を理解し、説明できる。 2. 膣式子宮全摘術を術者として施行できる。 3. 手術適応を述べ、手技を施行でき、術前・術後管理ができる。			
教科書・参考書	産婦人科手術スタンダード 改訂第2版(日本産婦人科手術学会編 メジカルビュー社)			
準備学習(予習・復習・時間)	事前に参考資料を読むこと、授業後にはレポートを提出すること 1時間			
成績評価法	カンファレンス及び手術の現場で達成目標を習得できたかを評価する。			
卒業認定・学位授与の方針との関連性	婦人科腫瘍学の知識に基づいて、自身の研究を遂行し論述する能力を習得する			
講 義 内 容				
前期(回)	内 容 (出席Ⓢ)		後期(回)	内 容 (出席Ⓢ)
1	子宮頸部円錐切除術実習 1		1	
2	子宮頸部円錐切除術実習 2		2	
3	単純子宮全摘術実習 1		3	
4	単純子宮全摘術実習 2		4	
5	付属器切除術実習 1		5	
6	付属器切除術実習 2		6	
7	子宮外妊娠手術実習 1		7	
8	子宮外妊娠手術実習 2		8	
9	子宮内容除去術実習 1		9	
10	子宮内容除去術実習 2		10	
11	広汎性子宮全摘術実習 1		11	
12	広汎性子宮全摘術実習 2		12	
13	広汎性子宮全摘術実習 3		13	
14	膣式子宮摘出術実習 1		14	
15	膣式子宮摘出術実習 2		15	

2025 年度講義シラバス（9）

講義コード	※	専攻分野	産婦人科学	
講義題目	婦人科内視鏡学特論、実習		必修/選択	必修
担当教員	田村 みどり	担当教員連絡先	内線 3332	
単位数	1 単位（前期・後期）	履修年次	2 年	
テーマと目的	婦人科内視鏡の理論ならびに手技を学ぶ。			
講義計画	手術の現場とその前後の講義を通して、婦人科内視鏡手術の理論、手技を教示する。			
達成目標	1. 婦人科内視鏡手術全般の理論を理解し、説明できる。 2. 診断的腹腔鏡検査を術者として施行できる。 3. 手術適応を述べ、手技を施行でき、術前・術後管理ができる。			
教科書・参考書	産婦人科手術スタンダード 改訂第2版（日本産婦人科手術学会編 メジカルビュー社）			
準備学習(予習・復習・時間)	事前に参考資料を読むこと、授業後にはレポートを提出すること 1時間			
成績評価法	カンファレンス及び内視鏡検査・手術の現場で達成目標を習得できたかを評価する。			
卒業認定・学位授与の方針との関連性	内視鏡手術の経験を積み、手技を学ぶとともに、将来技術認定医の取得に必要な内視鏡手術に関する医学論文を作成する知識を身につける。			
講 義 内 容				
前期(回)	内 容 (出席㊥)		後期(回)	内 容 (出席㊥)
1	腹腔鏡手術 総論 1		1	子宮筋腫 1
2	腹腔鏡手術 総論 2		2	子宮筋腫 2
3	腹腔鏡手術 総論 3		3	子宮筋腫 3
4	良性疾患序論		4	骨盤臓器脱（腹腔鏡下仙骨脛固定術）
5	良性卵巣腫瘍		5	先天性腔欠損症
6	不妊症 1		6	悪性疾患序論
7	不妊症 2		7	子宮頸がん
8	不妊症 3		8	子宮体がん
9	不妊症 4		9	卵巣がん
10	子宮内膜症 1		10	ロボット支援手術
11	子宮内膜症 2		11	子宮鏡手術編 総論
12	子宮内膜症 3		12	子宮鏡手術序論
13	子宮内膜症 4		13	子宮粘膜下筋腫
14	異所性妊娠 1		14	子宮内膜ポリープ
15	異所性妊娠 2		15	中隔子宮、子宮腔癒着症

2025 年度講義シラバス（10）

講義コード	※	専攻分野	産婦人科学		
講義題目	産科手術学特論、実習		必修/選択	必修	
担当教員	高江 正道	担当教員連絡先	内線 3332		
単位数	2 単位（後期 2）	履修年次	2 年		
テーマと目的	産科手術学の理論および手技を理解し、習得する。				
講義計画	手術の現場とその前後の講義を通して、産科手術の理論、手技を教示する。				
達成目標	1. 産科手術全般の理論を理解し、説明できる。 2. 合併症のない帝王切開術を術者として施行できる。 3. 手術適応を述べ、手技を施行でき、術前・術後管理ができる。				
教科書・参考書	産婦人科手術スタンダード 改訂第2版（日本産婦人科手術学会編 メジカルビュー社）				
準備学習(予習・復習・時間)	事前に参考資料を読むこと、授業後にはレポートを提出すること 1時間				
成績評価法	カンファレンス及び手術の現場で達成目標を習得できたかを評価する。				
卒業認定・学位授与の方針との関連性	産科手術を要する疾患の理解と手術を適切に遂行する力を養う				
講 義 内 容					
前期(回)	内 容	(出席㊥)	後期(回)	内 容	(出席㊥)
1			1	分娩誘発法 1	
2			2	分娩誘発法 2	
3			3	分娩誘発法 3	
4			4	頸管縫縮術	
5			5	吸引・鉗子分娩 1	
6			6	吸引・鉗子分娩 2	
7			7	会陰、膣壁裂傷縫合術 1	
8			8	会陰、膣壁裂傷縫合術 2	
9			9	帝王切開術 1	
10			10	帝王切開術 2	
11			11	帝王切開術 3	
12			12	分娩誘発法 1	
13			13	分娩誘発法 2	
14			14	分娩誘発法 3	
15			15	産科麻酔	

2025 年度講義シラバス（11）

講義コード	※	専攻分野	産婦人科学	
講義題目	生殖補助技術特論、実習		必修/選択	必修
担当教員	洞下 由記	担当教員連絡先	内線 3332	
単位数	2 単位（前期 1、後期 1）	履修年次	2 年	
テーマと目的	生殖補助医療の基礎理論について学ぶ。			
講義計画	系統講義および外来診療、体外受精－胚移植の実技、また配偶子および胚の培養技術の実習を通して、生殖補助技術の理論、手技を教示する。			
達成目標	1. 生殖補助技術の理論、適応を述べることができる。 2. 体外受精の排卵、培養、胚移植を施行できる。			
教科書・参考書	生殖医療の必修知識 2023（日本生殖医学会・編 株式会社杏林舎）			
準備学習(予習・復習・時間)	事前に参考資料を読むこと、授業後にはレポートを提出すること 1時間			
成績評価法	カンファレンス及び外来、採卵室、培養室での実習により評価する。			
卒業認定・学位授与の方針との関連性	生殖補助医療の基礎的な知識に基づいて、自身の研究を遂行し論述する能力を習得する			
講 義 内 容				
前期(回)	内 容 (出席@)	後期(回)	内 容 (出席@)	
1	卵胞発育の基礎知識 1	1	体外受精 1	
2	卵胞発育の基礎知識 2	2	体外受精 2	
3	卵胞発育の基礎知識 3	3	体外受精 3	
4	卵胞発育の基礎知識 4	4	顕微授精 1	
5	卵巣刺激法 1	5	顕微授精 2	
6	卵巣刺激法 2	6	顕微授精 3	
7	卵巣刺激法 3	7	体外培養法 1	
8	卵巣刺激法 4	8	体外培養法 2	
9	排卵法 1	9	人工授精 1	
10	排卵法 2	10	人工授精 2	
11	受精の基礎知識 1	11	精子、卵子、受精卵の凍結保存 1	
12	受精の基礎知識 2	12	精子、卵子、受精卵の凍結保存 2	
13	受精の基礎知識 3	13	精子、卵子、受精卵の凍結保存 3	
14	精子発生の基礎	14	胚移植法 1	
15	精子の評価と処理	15	胚移植法 3	

2025 年度講義シラバス（１２）

講義コード	※	専攻分野	産婦人科学		
講義題目	生殖医学実習		必修/選択	選択	
担当教員	洞下 由記	担当教員連絡先	内線 3332		
単位数	1 単位（前期、後期）	履修年次	1年・2 年		
テーマと目的	不妊診療および生殖補助医療で用いられる基本的な技術を習得する。				
講義計画	調節的卵巣刺激法から体外受精、顕微授精に至る生殖補助医療に関する技術およびその関連技術につき解説する。				
達成目標	生殖補助技術一般を技術面からも理解する。また、その倫理的側面を十分考慮する基礎的知識を身に付ける。				
教科書・参考書	生殖医療ガイドライン（日本生殖医学会・編 株式会社杏林舎）				
準備学習(予習・復習・時間)	事前に参考資料を読むこと、授業後にはレポートを提出すること 1時間				
成績評価法	出席と受講態度、達成目標を習得できたかによる総合評価。				
卒業認定・学位授与の方針との関連性	実際の臨床の現場での生殖補助医療の知識に基づいて、自身の研究を遂行し論述する能力を習得する				
講 義 内 容					
前期(回)	内 容	(出席◎)	後期(回)	内 容	(出席◎)
1	調節卵巣刺激法 1		1	胚凍結 1	
2	調節卵巣刺激法 2		2	胚凍結 2	
3	排卵法 1		3	IVM 1	
4	排卵法 2		4	IVM 2	
5	体外受精および培養 1		5	PGD と PGS 1	
6	体外受精および培養 2		6	PGD と PGS 2	
7	体外受精および培養 3		7	その他の ART	
8	体外受精および培養 4		8	薬物療法 1	
9	体外受精および培養 5		9	薬物療法 2	
10	顕微授精		10	薬物療法 3	
11	胚移植 1		11	精巣内精子採取法	
12	胚移植 2		12	習慣流産 1	
13	胚移植 3		13	習慣流産 2	
14	黄体補充 1		14	生殖と遺伝子	
15	黄体補充 2		15	生殖と染色体	

2025 年度講義シラバス（13）

講義コード	※	専攻分野	産婦人科学	
講義題目	神経生理学特論		必修/選択	選択
担当教員	幸田 和久	担当教員連絡先	内線 3404	
単位数	4 単位（前期 2、後期 2）	履修年次	1 年・2 年	
テーマと目的	研究に必要な神経生理学の考え方を習得する。			
講義計画	前期は神経系の構成と機能、神経生理学的研究方法についての講義を行う。 後期は学習・記憶の脳内機構についての講義を行う。			
達成目標	感覚・運動等の神経系の機能について説明できる。 学習・記憶の脳内機構について議論できる。			
教科書・参考書	From Neuron to Brain (Nicholls, Martin, and Wallace eds)			
準備学習(予習・復習・時間)	事前に参考資料を読むこと、授業後にはレポートを提出すること 1時間			
成績評価法	出席状況、討論、発表の総合評価			
卒業認定・学位授与の方針との関連性	神経科学の知識に基づいて、自立して研究を行い論文を作成して発表する能力を養う			
講 義 内 容				
前期(回)	内 容 (出席◎)	後期(回)	内 容 (出席◎)	
1	神経系の構成と機能の概略 (1)	1	学習・記憶研究の歴史	
2	神経系の構成と機能の概略 (2)	2	学習・記憶の研究法 (1)	
3	神経系の構成と機能の概略 (3)	3	学習・記憶の研究法 (2)	
4	神経生理学的研究方法 (1)	4	学習・記憶の研究法 (3)	
5	神経生理学的研究方法 (2)	5	学習・記憶とシナプスの可塑性 (1)	
6	神経生理学的研究方法 (3)	6	学習・記憶とシナプスの可塑性 (2)	
7	ニューロンの膜電位 (1)	7	学習・記憶とシナプスの可塑性 (3)	
8	ニューロンの膜電位 (2)	8	学習・記憶の脳内機構 (1)	
9	ニューロンの膜電位 (3)	9	学習・記憶の脳内機構 (2)	
10	シナプスにおける情報処理 (1)	10	学習・記憶の脳内機構 (3)	
11	シナプスにおける情報処理 (2)	11	学習・記憶の脳内機構 (4)	
12	シナプスにおける情報処理 (3)	12	学習・記憶の脳内機構 (5)	
13	神経回路と情報処理 (1)	13	学習・記憶の脳内機構 (6)	
14	神経回路と情報処理 (2)	14	学習・記憶の脳内機構 (7)	
15	討論	15	討論	